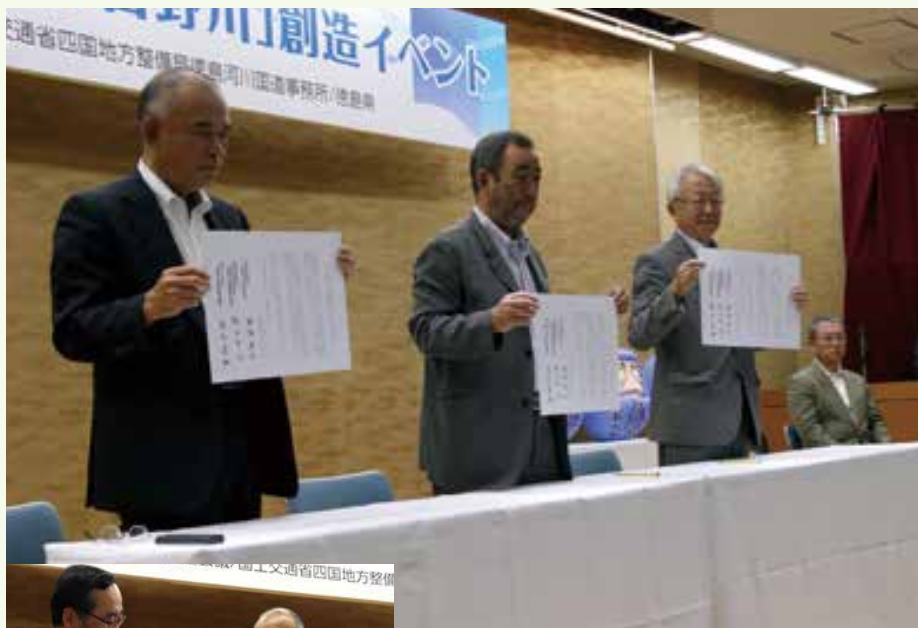


恵みの宝庫『吉野川』創造プロジェクト、スタート！ 三大河川の兄弟縁組を阿波の地で締結しました

平成24年度、徳島県で大きなプロジェクトが立ち上がりました。吉野川のさまざまな恵みを、「なりわい」「かたらい」「にぎわい」の3つの視点でとらえ、地域振興に役立てるとともに、吉野川の魅力を全国に発信していこうという、その名も「恵みの宝庫『吉野川』創造プロジェクト」。国民文化祭と連携して行われた三大河川兄弟縁組もそのひとつです。



↑ 協定書を掲げる三大河川の代表者。左から吉野川交流推進会議の福永義和会長、筑後川流域連携倶楽部の駄田井正理事長、利根川流域交流会の福成孝三会長

←代表者によって片目が入られたるまに飯泉徳島県知事が目を入れて、縁組だるまが完成。大切にそれぞれの地に持ち帰りました



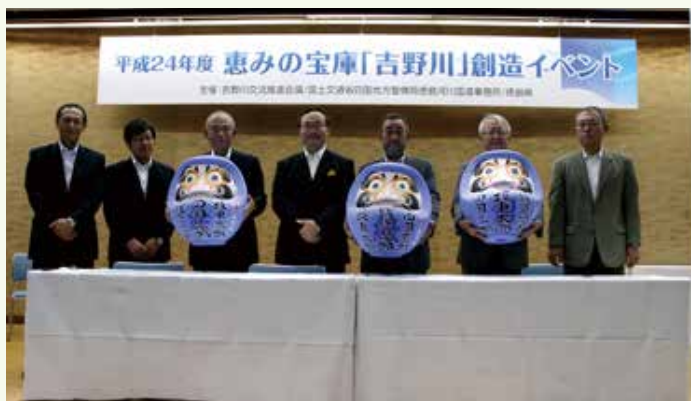
兄弟がついに集結

平成24年から始まった「恵みの宝庫『吉野川』創造プロジェクト」は、産業振興としての「なりわい」、歴史・文化・環境の「かたらい」、観光・交流としての「にぎわい」の3つの視点から、さまざまな事業を展開しています。国土交通省徳島河川国道事務所、徳島県、吉野川交流推進会議、徳島県手入れ砂対策協議会をはじめ、関係機関が連携し、官民協働で取り組む一大プロジェクトです。その皮切りとして、2月19日、蜂須賀桜の植樹が行われました（↓P7関連記事）。

このプロジェクトの一環として、数年来、吉野川交流推進会議がはたらきかけてきた日本三大河川の兄弟縁組が実施されることに……。晴れの舞台は9月29日（土）・30日（日）、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）で開催の「恵みの宝庫『吉野川』創造イベント」。三河川の代表者が集結し、ついに調印式が行われる運びとなりました。

さすが三大暴れ川

台風17号の接近で、両日は激しい雨風にみまわれました。しかし、集まった三河川の関係者たちは興奮気味。「さすが日本三大暴れ川！」「筋縄ではいかないね（笑）」と、あちこちから弾んだ声が聞こえました。三好和義氏によるギャラリートークや産直市、「とくしまマルシェ」への兄弟縁組ブース出店など、多くのイベントは中止となりましたが、兄弟縁組式典は30日10時30分より関係者約120人が参加して敢行されました。



協定書には、兄弟縁組の目的や意義のほか、「水文化交流の範として我が国から世界へ」と、壮大な抱負も記されています

